教職員・院生版生協だより

かけはし

No. 275
2008 年 1 ・ 2 月号
発行　名 大 生 協 理 事 会
編集　名大生協教職員委員会
☎ 学内線 7540, 学外線 781−1111

12 月 7 日第 20 回音としゃべりの金曜サロン
ホットでハートフルなジャズナンバーに魅了されました。

名 大 生 協 の ホ ー ム ペ ー ジ（URL）　http://www.nucoop.jp/
教職員委員会への e-mail あて先　kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

も　く　じ

理事長の新年の挨拶〈戸田山和久名古屋大学生協理事長〉-------3

【企画案内】

名古屋大学平和憲章制定 21 周年記念企画

映画「硫黄島からの手紙」「父親たちの星条旗」上映会 ----------4

豊川海軍工廠跡地戦跡見学ツアー ----------4

初心・初級スキー教室＆スキーツアーのご案内----------5

ミステリー酒蔵見学ツアー ----------5

【報告】

2007 年オキナワの旅③「城（グスク）めぐり」----------6

中山道を歩こう２「足で、目で、舌で、江戸時代追体験」--------10

安心・安全やっぱりリンゴはＦエース ----------11

ホットでハートフルなジャズライブ----------12

全国大学生協連第 51 回通常総会に参加して ----------13

冬の組合員交流企画の報告----------26

教職員委員会の活動日誌----------26

【記事】

東山キャンパスおよびその周辺のゾウムシ④

「落ち葉､腐葉土の中のゾウムシ」----------14

魔言「オーライオーライ」「教師冥利」「待機説法」「五角鉛筆」16

新フィールドノート–その 104 –

「居酒屋における人間学」----------18

ある団塊世代の読書ノート

第１回「純文学？　それともポルノ？」----------20

ニュースに一喝！

「うそ」「惻隠の情」「不眠信仰」----------22

かけはしの輪 ----------24

アンケート・クイズ解答用紙 ----------28

ＣＯ–ＯＰ　ＱＵＩＺ＜ Logic ＞ ----------29

名古屋大学平和憲章（前文） ---------- 裏表紙

あけましておめでとうございます

名古屋大学生協理事長　戸田山和久

あけましておめでとうございます。とは言うものの、この原稿を書いているのはまだ昨年末です。とにかく忙しい一年でした。これは大学に勤めるすべての方の共通した思いではないでしょうか。あまりの忙しさに、「いそがしい」と言っている時間もない、というほどの忙しさです。私も「いそがっ」くらいまでしか言っているヒマがありません。「いや、ワタシは「いそっ」だ」と言う人もいるかもしれません。

大学は「知の共同体」である、ということになっていますが、このように評価への対応やら各種書類書きに追われているうちに、大学からかんじんの共同体性が失われていくのではないか、と私は危惧しています。たとえば、分野の離れた教員同士が互いに相手の研究内容について語り合う、といったことが行われているでしょうか。そのための日常的な場があるでしょうか。互いの研究を数量的にしか見ない、といった風潮が私たちを蝕んではいないでしょうか。

理事長就任の際に、私は『かけはし』に、生協は学ぶものが学ぶための生活環境をととのえるためにつくった組合であり、もしかしたら大学の発生時の姿を最もよくとどめている、最も「大学らしい」組織なのではないか、という趣旨のことを書かせていただきました。就任してからまだ5ヶ月ほどですが、これまで参加することのなかった生協内部で行われている議論に加わることによって、私はますますこの思いを強めています。

昨年12月はじめに、大学生協東海地域センターによる理事長・教職員セミナーが名古屋大学で開催されました。東海地域の各大学生協から代表が集まって議論を行ったのですが、新米理事長としては、初めて知ることばかりでした。まず、生協の置かれている状況が大学によってこんなに違うのか、ということに驚かされます。かなり苦しい経営を強いられているところもありますし、新入生への新規加入の呼びかけすらままならない組合もありました。

さいわい、名古屋大学生協と名古屋大学とのあいだには、協同して学生のための良好な学習・生活環境をつくっていこう、という共通理解が保たれているように思われます。しかし、これはどうも当たり前のことではなさそうです。先人の努力によってこうした共通理解がつくられ、保たれてきたのです。生協は自分たちの生活のために自分たちがつくっている協同組合なのだ、という意識が失われてしまい、生協が数多ある「業者」のひとつにすぎないと位置づけられるに至ったとき、私たちの生協にも危機が訪れることになるでしょう。そしてそれは、私たちの大学の正真正銘の危機でもある、と思います。

昨年には、北部生協の改装を行うことができました。明るく、利用しやすい店舗になりました。今年の重要な課題は何でしょう。今年中には教養教育棟の改修が終了します。これにともなって、南部地区を、アカデミックな雰囲気を醸成しつつ、1～2年生にとって過ごしやすい空間にしていくこと。これはたいへんですが、大学構成員にとって楽しみのある課題だとも言えるでしょう。組合員のみなさまのお知恵を借りながら、すすめていきたいと思います。どうぞ本年もよろしくお願いいたします。

名古屋大学平和憲章制定 21 周年記念企画

クリント・イーストウッド監督の硫黄島２部作堂々上映

映画「硫黄島からの手紙」

日時 :2 月 5 日 (月)17:30 ～

映画「父親たちの星条旗」

日時 :2 月 12 日 (月)17:30 ～

参加費 : 無料　会場 : 理学部 B06 大講義室

太平洋戦争末期の硫黄島にて日米の壮絶な戦いを日本側とアメリカ側から描かれたクリント・イーストウッド監督の２部作を上映します。「硫黄島からの手紙」は５日で終わるとされた戦いを 36 日間戦い続けた男達の戦場で残した届くことのなかった手紙が、今、届けられる。「父親達の星条旗」はアメリカ軍は圧倒的な戦力を持って山頂に星条旗を立てた。その写真はアメリカの勝利を映し出すとともにそこに隠された真実を封印した政府は、帰国した彼らを利用し、戦場で傷ついた心をさらに苦しめていく。

企画 : 名大生協教職員委員会

豊川海軍工廠跡地戦跡見学ツアー

昨年に引き続き、今年も豊川海軍工廠跡地 (名古屋大学太陽地球環境 (STE) 研究所内) の戦跡見学会が「豊川海軍工廠跡地保存をすすめる会」によって行われます。　豊川海軍工廠は広島と長崎に原子爆弾投下の狭間の 1945 年 8 月 7 日真っ昼間に空襲に遭い壊滅的なダメージと、多数の男女動員学徒が命を落としました。

平和憲章のある大学内に戦争遺跡があるにもかかわらず、学生・教職員はその存在を全く知りません。
是非この機会にご参加しください。

日程 :2008 年 **1** 月 **27** 日 (日)

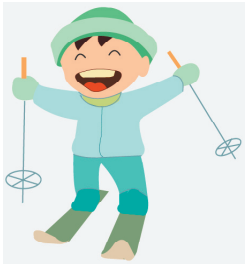
行き先 : 太陽地球環境研究所 (豊川市穂ノ原 3)
集合場所 : 名古屋大学博物館前
集合時間 :10 時（帰着は 18 時予定です。）
参加費 : 無料
参加申込は :http://kyoshoku@coop.nagoya-u.ac.jp/application.html

初心・初級スキー教室
&スキーツアーのご案内

スキーをはじめたい人、お子さんにスキーを教えたい人、友達と楽しくスキーをしたい人大集合。親切丁寧なコーチ陣があなたを手とり足とり教えます。教室なしのフリーも受け付けています。

日　　程：2008年2月8日（金）夜発～11日（月）

行 き 先：**岐阜県郡上市高鷲町のスキー場**



集合場所：名古屋大学博物館前

集合時間：22時30分

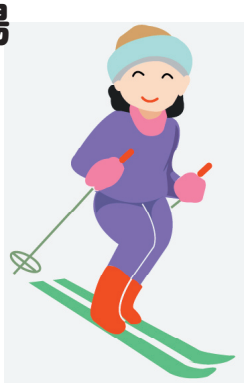
参 加 費：18,000円(3泊5食付き)

8,000円（小学生）

レンタル：板、靴、ウエアは実費

定　　員：10名程度

宿　　泊：貸別荘(食事は自炊します)



問い合わせは：kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

参加申込は :http://kyoshoku@coop.nagoya-u.ac.jp/application.html

ミステリー酒蔵見学ツアー

三重県の観光名所ととある酒蔵を見学に行きます。どこに行くかは全くのミステリーです。そんな不確かなツアーにあなたも参加してみませんか。酒蔵では醸造の見学、懇談、試飲を予定しています。

日程：2008年2月23日(土)

集合時間：8時30分集合・出発

（18時帰着予定）

集合場所：名古屋大学博物館前

参加費用：２０００円(昼食は実費)

定　　員：１２名程度

問い合わせは：kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

参加申込は :http://kyoshoku@coop.nagoya-u.ac.jp/application.html

２００７年オキナワの旅③

城（グスク）めぐり

全学技術センター　河合利秀

オキ旅の報告の最後に、沖縄のグスクを紹介します。

世界遺産になったこともあって、沖縄観光の人気スポットになっていますが、少し違った観点でグスクの魅力をお伝えできればと思います。

私が沖縄に初めて行ったのは１９９４年でした。その時、偶然に訪れた今帰仁（ナキジンと読む）城址は、深いやんばるの森に寂れた城壁を残すのみでしたが、すっかりその魅力に取りつかれてしまいました。その後沖縄を訪れる度に、整備・再建の進んだ首里城には目もくれず、ひたすら古い城址を探しました。

ここでは首里城以外の穴場的な城址にスポットを当てます。この他にも、中城城や座喜味城など多くの魅力的な城址がたくさんあり、みな夫々に個性的で魅力的です。

城址ではありませんが、玉稜や識名園も必見です。沖縄に行ったら首里城だけでなく、こうした場所の一つでも見てもらえるとよいのではないかと思います。

中城城、座喜味城、勝連城、識名園はボランティアの案内係が常駐しているので受付で頼むと良いでしょう。

1、沖縄城址の石垣

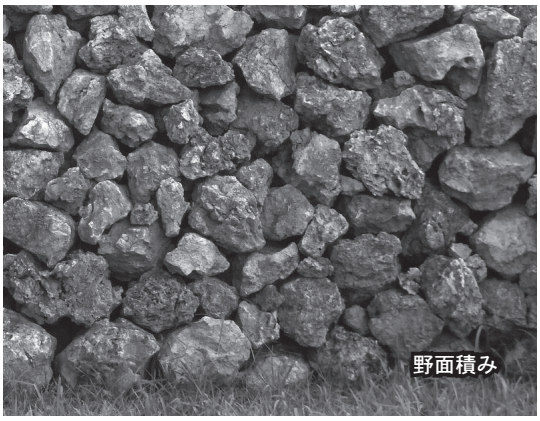
沖縄の城址の特徴は何と言っても石垣です。夫々の城址を紹介する前に、沖縄の城を象徴する石垣について紹介します。

日本本土の城に石垣による築城技術がもたらされる150年以上も前の13世紀、アジと呼ばれる地方の有力者が群雄割拠し、戦に明け暮れていました。戦いを優位にすすめるため、戦城は重要でした。このようなことから、この時代には堅固な石垣を巡らした城が135以上も作られていました。

１３５０年ころ、戦国時代後期の三山時代には３名の有力なアジが軍事上の要衝に山城を築き対峙していたのです。

大規模な城だけでも、北山の今帰仁城、中山の座喜味城・勝連城・中城城・浦添城・首里城、南山の大里城・大城城・知念城・玉城城・糸数城・南山城など10指を超えます。

こうした城址は、沖縄戦では日本軍守備隊の格好の陣地となり、米軍によって徹底的に破壊されました。それでも石垣の一部が残り、地下の基礎の部分を含めて破壊を免れ、貴重な文化遺産として今日に引き継がれています。


野面積み

石垣は主に琉球石灰岩です。比較的柔らかく加工が容易なこともあって、石組みの技術が大いに発展しました。14世紀にはすでに石組みによるアーチを完成、座喜見城の石門は優美な姿で知られています。

石の積み方は3種類あります。

石を加工しないで自然のまま積み上げた「野面積み」は、不定形な岩の面を合わせながら順に積んでいくもので、一見すると乱雑に見えますが、内部の応力を受け止めるように工夫されており、見た目よりずっと安定

しています。

四角に切り出した石を平らに積んだものは「布積み」といって、同じ厚さに切り出した石が整然と並んでいます。切り口は平らに削られています。

最も精緻な積み方は「乱れ積み」です。石の形に合わせてかみ合せるように積む手法は力学的な安定性も抜群で、大きさの不ぞろいなものを上手に組み合わせる技術は素晴らしいの一言です。

沖縄の城址を廻るとき、石垣の構造にも注目すると、沖縄の城が何期にも渡って拡張・整備されたことが分かるでしょう。

2、今帰仁城址（標高100ｍ）

今帰仁城は本部半島のほぼ中央にあり、北山の中心の城でした。

初めて今帰仁を訪れたのは１９９４年の夏。当時、今帰仁城はほとんど整備されておらず、どこでも自由に入ることができました。

今帰仁は１５００ｍの城壁と９つの郭を持つ大規模な城です。城壁は波状にうねり、独特の美しさをもっています。直線的な城壁しか見たことのなかった私は「これぞ沖縄の古城！」と感動しました。

正面の平郎門から入って石段を上りつめるとウーミヤと呼ばれる本丸前の広場があります。この登り道の両脇が寒緋桜の並木となっており、沖縄の桜見物なら今帰仁と言われるほどの名所です。

今帰仁城の石垣は古期石灰岩で作られています。古期石灰岩の石垣は今帰仁の他に２～３箇所しかありません。琉球石灰岩より硬いので、風雨による侵食や樹木による破壊が比較的少なく、戦争の惨禍を免れたこともあって、往時の風情をよく今に伝えています。

今帰仁城には悲劇の歴史があります。

１４１６年、中山王尚巴志は２０００人の大軍を率いて今帰仁城を攻撃、500人の守備兵で対峙したハン安知は３日間の激戦の後、内通者による裏切りによって壮絶な死を遂げました。このとき郭の主要な建物も全て灰となったのです。「荒城の月」の歌詞を思い出さずにはいられない悲劇の城跡に、しばし足を止めるのも良いでしょう。

二の郭から一の郭の城壁を見上げる

勝連城壁の断崖

3、勝連城址（標高98ｍ）

初めて訪れたときはまだ城ブームの前で、寂れたたたずまいと城壁の上を吹きぬける風音がやけに寂しい所でした。今のように案内のようなものは何もなく、一の郭の城壁に上って東を見ると、断崖絶壁となっていて足がすくみます。

勝連（かつれん）城は琉球本島の中央に位置し、南は与那原の海岸から知念半島、西は中城湾、北は金武湾から北部の山々、海の中道・伊計島、宮城島、浜比嘉島が見渡せます。

勝連の名は硬い荒地という意味の「枯れかっちん」からきたと言われ、痩せた土地で人々は飢えに苦しむような場所でした。貧しい農民の出身である阿麻和利（三山時代の英雄・豪傑の一人）が勝連の城主となると、稲や麦を中心とする農業に力を入れ、海外貿易によって富を得ると同時に海外の優れた文化や技術を取り入れました。阿麻和利の統治によって勝連は大いに繁栄し、海外にも知られた美しい町となったのです。

おもろぞうし（沖縄の万葉集とも言われ、古い歌を編集したもの）に「勝連の阿麻和利、すぐれた阿麻和利、千年もこの勝連を治めよ・・」と謳われているほどです。しかし、琉球王朝の描いた歴史書は阿麻和利を逆賊・極悪人として伝え、琉球舞踊の中の物語にも悪役として登場します。

勝連城から見下ろす中城湾は絶景です。昼間の景色も良いのですが、夕日で赤く染まった伊計湾と夕焼け雲は格別です。

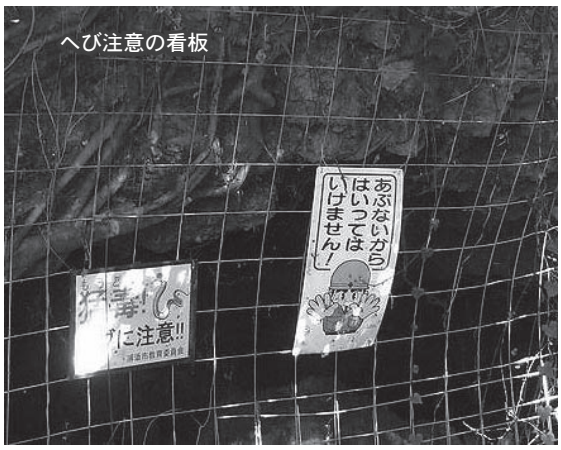
勝連城址から見た夕日

嘉数高地と普天間基地

4、浦添城址（標高140ｍ）

浦添城址は公園として整備されています。330号線から東に入った小高い丘の上で、「安保の見える丘」として名高い嘉数高地の展望台より標高があり、普天間基地も良く見えます。

２００５年に「浦添ようどれ」が復元されました。浦添ようどれは13世紀に初期琉球王朝の基礎を築いた英祖王によって開かれ、17世紀尚寧王（薩摩の琉球侵攻によって浦添城をやかれた悲



へび注意の看板

浦添の鬱蒼とした森

劇の王）によって王陵として整備されたもので、英祖王と尚寧王が今もここに眠っています。

浦添城址は深い森になっていて、デイゴの大木が繁茂し、絶えず鳥のさえずりが聞こえます。南国の蝶が乱舞し、ハブに注意の看板に思わず足元を見る・・・と言った状況で、まさに野生の森。デイゴの花の蜜を目当てに集まる蝶の種類の多いこと！

オオゴマダラ（日本最大の蝶と言われている）やツマベニチョウ、琉球カバマダラ、琉球ミスジ、琉球ムラサキ、イシガケチョウなど、沖縄固有種や南方系の蝶たちが出迎えてくれます。

「浦添ようどれ」入り口

5、糸数城址（標高183ｍ）

糸数城址はまだほとんど手付かずの状態で、つい最近ようやく発掘作業が始まったばかりです。至る所に養生シートが張られ、石垣は築城から500年以上前のままで、風化がすすみ、石畳の表面もごつごつと鋭い突起となり歩くのもたいへんです。琉球石灰岩の特徴がよく出ています。

城壁は野面積みと布積みで、最も高いところは布積みとなっています。野面積みの石垣は表面が大きく侵食され、琉球石灰岩が侵食を受けたときに鮮明となる珊瑚の骨格があらわとなっています。

この一帯は浦添公園と同じように蝶の楽園で、色彩豊かな蝶が乱舞しています。

琉球マダラ

よく見ると小型の蝶は南方の迷蝶と思われるものも多く、蝶に詳しい私ですら名前のわからないものもいました。琉球ミスジ、オオゴマダラ、琉球カバマダラ、ツマベニチョウ、アオスジアゲハ、モンキアゲハなど、どれも人間を気にすることもなく私の顔にぶつかりそうな勢いで飛んでくるのには驚かされます。

浸食された琉球石灰岩の城壁

中山道を歩こう2の報告

足で、目で、舌で、江戸時代追体験

大井宿本陣跡にて

11月3日（土・文化の日）、恒例のハイキングを行いました。昨年の中山道＝大湫宿（瑞浪市）から大井宿（恵那市）までの踏破に続いて、今年は大井宿から落合宿（中津川市）までの踏破に挑戦しました。今年の参加者は7人で、内6人は昨年に続いての参加です。

朝8時名大を出発。今年も「文化の日」は晴天に恵まれました。約1時間でJR恵那駅前に到着、ここから歩き始めです。駅から15分で旧大井宿の本陣跡に到着、ここでまず記念写真を撮りました（写真）。

私たちは、かつて中山道を旅した江戸の人々も途中で寄り道をしたであろう神社や一里塚、道祖神、馬頭観音などになぐさめられつつ、また江戸の旅人と同様に、旅の途中で方角を変えながら始終眺めることができる笠置山、前山、恵那山の眺望を楽しみながら歩きました。

歩き始めて2時間、お昼時には皆川さんが車で先回りし、中津川市の坂本神社の境内をお借りして、たっぷりの豚汁をつくって待っていてくれました。坂本神社では、ちょうど地域の「文化祭」で様々な創作品の展示やバザーを開いていて、「名古屋から来た」というと大変歓迎されました。

江戸の旅人の追体験はさらにもう一つ。いまが旬。採れたばかりの栗を使った菓子、「栗きんとん」です。旧中山道の途中では、いずれも江戸時代に創業の老舗、美濃屋、川上屋、す屋という名の知れた店を巡ることができます。どこが一番美味しいのだろうと、いずれの店にも立ち寄り、購入して試食する人もありました。さて結果は……。文章には出来ませんので参加者に訊いてください。

さらに老舗の造り酒屋もあり、試飲して購入する人もありました。

この日の行程は14キロでした。途中中央道の中津川ICと重なる400mだけは消滅し、迂回しなければなりませんでしたが、あとはすべて昔の中山道を歩くことができました。

午後5時30分、ゴールの落合宿に到着、筆者が腰に付けていた歩数計は2万7千歩を記録していました。

前方の恵那山を眺めながら中山道を歩く参加者

その後、「恵那かんぽの湯」で疲れを癒しました。

ここまではよかったのですが、名古屋に向かって帰ろうと車に乗ってすぐ、恵那市内で信号待ちをしていた我々の車に、後方からドスンとぶつけられ、診察や事故処理で深夜まで時間を取られてしまうという残念な事故に遭遇してしまいました。参加者の皆様、特にむちうちの症状が現れた方々にお見舞い申し上げます。

いよいよ来年は、落合宿から島崎藤村のふるさと馬籠～馬籠峠～妻籠（長野県）をめざします。

（文＝柴田）

安心・安全やっぱりリンゴはFエース

11月23日（金）、快晴。9時博物館前に集合したのは9人で、2台のワゴン車に分乗してFエースりんごの産地長野県松川町へ向かう。3連休初日とあって渋滞はたびたびではあったが、それでも午前中に目的の奥村農園に到着。早速、りんごの実る木の下に案内され、収穫も終わりに近づいているふじをいただいた。ここには、生協りんごのファンで、りんごに魅された元名大職員（定年退職者）が、りんごの花摘みや収穫の農繁期にお手伝い（というか、居候と言うか。）に来ていて、今回も2名の方に久しぶりにお会いした。りんごの花は5つ咲き、周りの4つを取り去り、1つだけ実らせるのである。結構な手間である。今回は収穫の時期で、ふじ以外のりんごは既に収穫済みであるが、目的はふじであるから丁度よい。たわわに実ったふじをもう結構というほどいただいた。

忙しい中を、奥村さんに時間を割いていただき、りんごの話を少しばかり伺い、りんごジュースと洋梨ル・レクチェをいただいた。このりんごジュースは、市販のもののように高熱殺菌していないので、園内でしかいただけないしろものである。甘みと酸味が丁度よくとてもおいしい。おいしいりんごの見分け方（参加した人にしか分からない。）、りんごの花摘みの話、受粉の話（ここでは、人力以外に蜂も飼っている。）、今年は、猛暑のせいでりんごの作柄はあまりよくない、などの話を伺っているうちに、バケツはりんごの皮で満杯になってしまった。もう、みんなりんごはいいと言うところまで食べた後、頼まれたりんごを車一杯積み込んで昼食に向かう。

昼食は、名前は忘れてしまったが、以前奥村さんに教えていただいた、トンカツの美味しいと言われるレストラン。前にも寄ったことがあるが、ランチタイムの午後2時を過ぎていて、実際に入るのは今回が初めてである。ほとんどの人がお薦めのカツ丼を注文し、出てきたカツ丼に圧倒された。なんと2cmはあるかと思えるトンカツが丼からはみ出して出てきた。先ほど、りんごを満腹になる位食べたのに全員完食した。それほど美味しいカツ丼だった。

昼食の後は、温泉である。最近では、清流苑に寄るのが恒例になっている。温泉にゆったりとつかり、お土産を買った後は家路に急ぐだけだ。帰りは渋滞はそんなに深刻ではなく、午後7時には大学に帰って来た。

年ごとに産地見学は、りんごとみかんを交互に繰り返してきたが、今年は2年連続でりんごである。りんごの方が好評なので、来年もりんごの産地見学にしたいので、来年のスケジュール帳に11月23日「りんごの産地見学」と記入しておいて下さい。

参加者の感想

りんごの話が興味深かった

○とてもあつく迎えていただいたので、心おきなく楽しむことができました。リンゴの品種やおいしいリンゴの見分け方などの詳しいお話はとても興味深かったです。もぎ取って食べるのははじめてでとても感動しました。とっても美味しかった!!りんごジュースやりんごジャムも味見できたし楽しかったです!!!　楽しい企画をこれからもおねがいします!!　（ネコ）

はしゃいで沢山食べちゃった

○私も田舎の出身で農家の方と話すことも多かったのですが、りんごのプロの方とは初めてだったのでお話し楽しかったです。いろいろ教えていただいてありがとうございます。りんご一つひとつ味が違うこともびっくりしました。すごくはしゃいでたくさん食べました。温泉もいっぱいあって大変よかったです。旅の疲れを癒すのにちょうどいいな。安くてこんな盛りだくさんの旅行はすごい。　（匿名）

ジュースのおいしさに驚き

○生産者の方が説明までしてくれてありがとうございます。りんごはすごくおいしかったです。りんごジュースのおいしさはおどろきでした。温泉は座ってあびるお風呂がよかったです。（に）

旬ですので大変よかった

○かけはしを見て参加しました。Fエースりんごの産地は初めてです。旬ですので大変よかったです。これからも続けて計画してください。　（劉）

第20回音としゃべりの金曜サロン報告

ホットでハートフルなジャズライブ

12月7日（金）18時から「第20回音としゃべりの金曜サロン」を行いました。今回は数年前にも演奏いただいた小林美千代さんのグループをお迎えし、「ホットジャズライブ at 師走」と題して行いました。メンバーは小林美千代さん、名古屋生まれ、中部地方を代表する女性サックス奏者です。リズムセクションは杉山麻子さん（ｐ）、日景修さん（ｂ）、山下佳孝さん（ds）のカルテットにゲストとして司いつ子さんのボーカルが花を添えます。

今回は立ち上がりが遅く演奏者のお願いなど準備も大変でしたが、29名の組合員の皆さんに参加していただきました。

18時5分参加者もほぼ集まり、カルテットでの演奏が始まりました。力強く「There Is No Greater Love」「O Grande Amor」が演奏されました。続いて司いつ子さんが登場し、ジャズの名曲やスタンダード曲として「You'd Be So Nice To Come Home To」「My Favorite Things」サッチモの歌で有名な「この素晴らしき世界」、「バードランドの子守唄」を歌っていただきました。ビターでスイートな歌声がいっぱいに拡がりました。

19時過ぎ1部が終了し、前にテーブル、椅子、軽食を並べて休憩とおしゃべりタイムです。

参加者からはサックスを習得するにはどうすればいいか聞かれました。小林さんは一番好きなサックス奏者をきめ、繰り返し聞くことだという回答でした。その内に自分のスタイルが出来上がってくるとのこと。ドラムの質問には山下さんが直にドラムをたたいて同じドラムでもたたくところによって色々な音色が出ること、リズムによっても縁をたたいたり、スティックやブラシを使用したり変化させていることを説明してくれました。

15分ほどのおしゃべりタイムの終了後第2部が始まりました。演奏のみで「All Blues」と自作曲「In Your Arms」演奏されバラードでの叙情的な演奏に感動しました。

その後、司さんに「枯葉」「『黒いオルフェ』からカーニバル」「ザ・クリスマスソング」などを歌っていただきました。最後にアンコールとして「スーパースター」を歌っていただき20時15分に終了しました。

参加者の皆さんには食堂でのライブなので、雰囲気が出ない、照明が調節できないなどありますが、概ね満足してくれたのではないかと思います。

来年度も参加者のアンケートやご意見をもとに楽しいコンサートを大学内で開催しますので組合員の皆さん、一緒に楽しみましょう。

ホットジャズライブの感想（18人分）

企画を何で知りましたか

知人・友人(9)、メール(4)、かけはし(5)、家族(1)

参加の動機は

ジャズ(8)、友人の誘い(5)、金サロ愛好家(2)、コンサート(2)

ホットジャズライブについて

よかった(14)、ややよい(2)、普通(1)、悪い(1)

ひとこと

○素敵な演奏有難うございました。（松本）

○楽しかったです。環境の悪いところだったのに、ありがとうございました。うっとりしました。（松永）

○気軽な雰囲気の中、素敵な音楽を聴くことができました。みなさんフツーな見た目の方で親近感がわきました。（林）

○落ち着いた演奏は好感が持てる。場所がやはりちょっと残念。（山川）

○生演奏はいいですね。ステキな夜になりました。（佐野）

○サックスはムードがあってとてもいいですね。（苅谷）

○おいしいお弁当もついてリーズナブルな価格で、しかも楽しい演奏、身近でステキな演奏が聞けてとてもよかったです。（大森）

全国大学生協連
第51回通常総会に参加して

全国大学生活協同組合連合会（以下、大学生協連）の第51回通常総会が12月15日（土）から16日（日）にかけてつくば国際会議場で開催されました。筆者は傍聴者として初めて全国総会に参加しました。国内外の招待者を含め代議員、傍聴者、全国理事、監事など合わせ980名を超える学生、院生、教職員、生協職員などが集結しました。今年度はいつものプログラムを変更し、1日目が活動交流セミナー、2日目が通常総会として運営されました。

1日目の全国活動交流セミナーは15日13時、全体会での開会セレモニーから始まりました。その後、第1部は次の6つの分科会で活動交流が行われました。

第1分科会＝助け合いの輪を広げる取り組み
第2分科会＝組合員の運営参加と組織作り（学生組織中心）
第3分科会＝学生の「学び」と「成長」を支える取り組み
第4分科会＝社会に目を向けた取り組み（環境など）
第5分科会＝コンプライアンスを重視した運営と大学の共同協力
第6分科会＝健全な経営・事業運営と組合員の声を生かしたお店づくり

各大学生協での特徴的な2、3の活動紹介の後、活発な意見交換と情報交換が行われました。

第2部では「学びと成長・キャリア形成支援」「共済活動」「事業活動」「環境」「平和・国際」「広報」「災害・ユニセフ」「総（代）会・総代活動」「ズバッとまるわかり！ビジョンとアクションプラン」「経営改革」の10の会場に分かれてテーマを絞っての活動紹介と活発な意見交換が行われました。どこの学生さんも自分の生協の良さをアピールし、生き生きと活動している姿にはとても感動しました。

18時からは好きなテーマのテーブルに好きなように集まって会員セッションを行いました。私たちは平和のテーブルに着きましたが、学生たちにはなぜ生協が平和を重視するのかという質問がありました。それには戦後の復興時にもう絶対に戦争を起こしてはならないと言う国民の強い意志から、平和でなければ生活が成り立たないと言うことではないかとお話ししました。短い時間でしたが参加者たちはそれなりに話せたのではないかと思います。19時半からは地域別交流会で東海地域センターの参加者約100名が料理、飲物なども準備して楽しく交流することが出来ました。

2日目は9時から全国総会が野々村実行委員長より開会宣言があり、来賓として全米カレッジストア協会（NACS）、コネチカット州立大学生協理事長のシンプソン会長の挨拶があり、他、韓国大学生協特別委員会から韓国の5つの大学からの来賓、生協が設立された神戸市立工業高等専門学校や設立準備校の浜松医科大学などが紹介されました。

その後庄司会長理事の挨拶、議案提案、監査報告とすすみ、休憩を挟んで全体討論として9つの全体発言がありました。昼食休憩後、討論のまとめがあり、議場閉鎖して全議案が賛成多数で可決され2008年度の方針が決定されました。新年度の役員・監事の投票も並行して行われ、全員が信任されました。ほとんどの代議員は学生たちであり、みんな生き生きと活動していることに深い共感と感銘を受けました。親御さんに実際にその活動を見てもらっていることなども話され、生協が学生たちの学びと成長に一役買っていること、生協もそのことによって活動が活発になり、その大学の良さの情報発信に繋がっていることがよく分かりました。傍聴者として参加して本当によかったと思いました。（皆川清）

全国大学生協連第51回通常総会のようす

東山キャンパスおよびその周辺のゾウムシ④

落ち葉、腐葉土の中のゾウムシ

全学技術センター　井上晶次

新芽の出るころから紅葉が始まる季節までゾウムシの採集は植物の茎、幹、葉、花、枯れ枝を叩き、倒木を覗き、ひっくり返して採集をします。冬になると、それまで活動していたゾウムシたちもどこかに行ってしまいます。しかし冬になっても野外でゾウムシは採集できます。その採集方法の一つが「土ふるい」と呼んでいる採集方法です。この方法は、生活のほとんどすべての期間を地中や地表付近で過ごす土壌ゾウムシの仲間を狙った採集方法です。

「土ふるい」採集は、マニアが細々とやっているのではなく、土壌生物の調査方法としてその道具も市販されています。インターネットで「土壌生物」あるいは「ツルグレン装置」を検索するといくつかヒットします。ツルグレン装置はロート状の容器に落ち葉、腐葉土を入れ上から光を当てると上部から乾燥が始まり、乾燥を嫌う生物がどんどん下のほうに移動し、最後はロートの細い口からポトリポトリ出てきたのを採集する装置です。私の場合は、自分の目で出てくるゾウムシを採集することを楽しみとしていますのでもう少し別の方法で探しています。

写真1

写真2

1。土壌ゾウムシの採集方法

(1)まずは土を拾いに

必要な道具は、スコップ、篩（ふるい）、シート、ビニール袋です。まずスコップで乾燥した落ち葉を取り除き、枯葉、腐葉土を篩に入れてビニールシートとの上でふるいます。私が使用している篩の網目は6㎜ですからそれより大きい石や枯れ枝はふるいの上に残るので捨てます。このとき、ひょっとして珍しいゾウムシをふるい落とさずに捨ててしまっているのではなかろうかと、未練が残りますが、あきらめが肝心と納得して未練も捨ててしまいます。

シートの上に落ちた土と腐葉土は、買い物用のビニール袋に入れて家に持ち帰ります。ある程度湿った土なので結構な重さがあります。東山キャンパスの土はいつでも採取できる安心感があり1袋採取したら帰ってきます。しかし、遠方に出かけたときは、珍しいゾウムシがでた場合、再び行くのも億劫なので多めに持ち帰ります。3袋も採取すると15㎏ほどになり負担となりますが、何が出てくるか楽しみを背負って山道を歩いて帰ってきます。

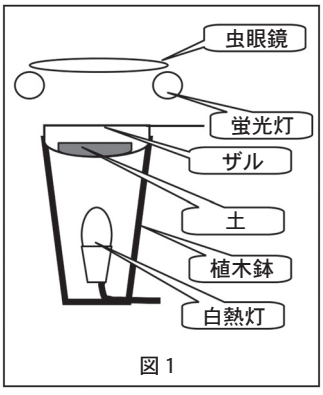


図1

(2)いよいよゾウムシ探し

必要な道具は、スコップ、植木鉢、白熱灯、照明つき虫眼鏡、ピンセット、スプーン、毒瓶、時計、ザルです。持ち帰った土は網目1㎜のザルでふるいます、これで1㎜以下の細かい土を落とします、写真2の様にそのままザルを白熱灯がセットされている植木鉢の上に乗せます。模式的に示すと図1のようになっています。この状態で虫眼鏡の上から覗いていると、下

から乾燥してくるので虫たちが上のほうにモゾモゾ這い出してきます、それをスプーンで掬いピンセットで摘んで採集します。

調べる時間は、1回につき8分から10分と決めています。経験的にゾウムシは5分から8分で這い出してきます。土の量は1回につき50g程度です、つまり5kgほど土を採取してくると、細かい土は落としたとして60~70回程度、10時間ほどゾウムシ出てこないかなと楽しめます。あまり出てこないといやになることもありますが、今度こそ、今度こそとやっているうちに3時間程度はすぐに過ぎてしまいます。

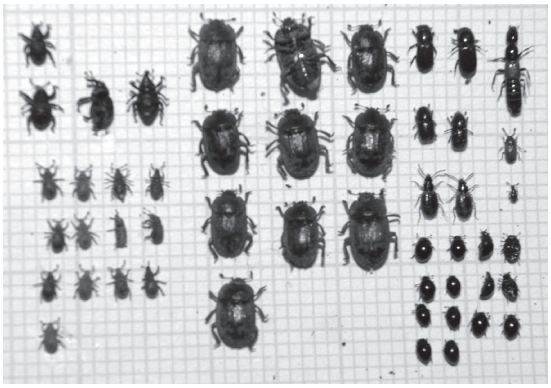


写真3（バックは1㎜方眼紙）

這い出してくるのは昆虫だけではありません、ダンゴムシ、クモ、ムカデ、カニムシ、ヤスデ、ミミズ、ダニ、その他変な格好をしたものが出てきます。写真3は2007年11月に東山キャンパスの土からふるいだした甲虫です。写真右上の細長い1頭はハネカクシの仲間、その下2㎜程度は科不明、その下の小さい1㎜程度の1頭はアリズカムシの仲間、右から2、3列目一番上の2頭はマグソコガネの仲間、その下の2頭はキクイムシの仲間、その下2頭はオサムシ（ゴミムシ）の仲間、右下隅の丸い2㎜程度の14頭はガムシの仲間、中央の小判型5㎜程度の10頭はケシキスイの仲間、ケシキスイの左側がゾウムシの仲間で3種採集できました。

2。東山キャンパスおよびその周辺で採集できる土壌ゾウムシ

(1)ケシツチゾウムシ、イコマケシツチゾウムシ

両種はよく似ており、同じ場所から同時に採集できることがあります。区別は30倍程度の実態顕微鏡で上翅を比較します。イコマケシツチゾウムシ（写真4下の列の右）の上翅の各間室（線状に見える線と線の間）に1列の細い毛があるのに対し、ケシツチゾウムシ（写真4下の列の右から2番目）は一つおきの間室に先端に向かって太くなる毛が生えていることで区別できます。写真3の左下隅13頭はイコマケシツチゾウムシです。

(2)チビヒョウタンゾウムシ（写真4上の列の中央）

私はこのゾウムシを土ふるいで採集したことはありません。早春から夏にかけて雑草を掬って採集しています。土壌ゾウムシとされていますが私には疑問があります。

(3)ホソヒメカタゾウムシ（写真4上の列の右）

このゾウムシも私は土ふるいで採集したことはありません、5月頃落ち葉に埋もれた朽木をひっくり返すと付いています。またシダ類の葉を叩いて採集しています。国内でも多くの場所で採集できますが、脚の形態が異なる固体があり、専門家は多くの種に分類されるであろうと予想しています。

(4)イワワキオチバゾウムシ（写真4上の列の左）

黒に近い茶色で光沢があるゾウムシです。平和公園の土から1頭採集したのみで、東山キャンパスで探していますがまだでてきません。

(5)ワタナベヒサゴクチカクシゾウムシ、アラムネヒサゴクチカクシゾウムシ

この2種もよく似ています、アラムネヒサゴクチカクシゾウムシ（写真4下の列の左から2番目）はその名のように胸に顆粒状の粒があり、上翅にはイチゴの種のような突起があるので両者を区別することができます。東山キャンパスではワタナベヒサゴクチカクシゾウムシ（写真4下の列の左）よりアラムネヒサゴクチカクシゾウムシの方が多いようです。アラムネヒサゴクチカクシゾウムシは、土ふるいだけではなく、朽木からも採集できます。

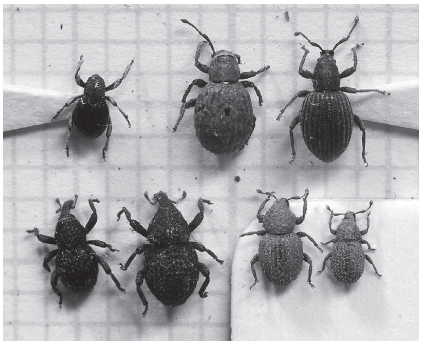


写真4（バックは1㎜方眼紙）

参考文献
土壌ゾウムシの定義については以下を引用しました。
森本 桂 日本産土壌ゾウムシ類概説 昆虫と自然 28(2),1993

言魔

オーライオーライ

10月の初めの頃だった。午前8時、そろそろ町は喧噪が始まった。その中から、工事車輌の誘導をする「オーライオーライ」という声が響いてきた。現在、我が家の周りは空前の建設ラッシュ、一時の超高層ビルの建設は一段落、それに引き続き、拙寺から、直径ほぼ150メートル以内の範囲で、かなりの規模のビルが8棟建設中、既にその中の2棟はもう完成、続いて、旧来の建物を壊して、新たに工事始まったところもある。8年中には大方完成、その中の巨大マンションは9年になる。新聞記事にもなったので、御承知の方もあろうが、最上階は200平米ちょっとの部屋になるそうで、5億円とか。拙寺の直ぐ後ろに立てられている。拙寺を正面から見ると、工事中のクレーンが倒れてきたらひとたまりもないような光景。そのマンションはおっかぶさるように出来る。始終見下ろされなければならない。

そんな中で、さわやかな空気を付いて聞こえてきたオーライオーライの声、奇妙な話だと思われるかも知れないが、実によく澄み渡った、聞いていてほれぼれするような響きだった。一体、どこからかと聞き耳を立てたが分からなかった。又、明日もと思って心待ちにしていたが、その後、ついにその声を耳にしない。

ほんの些細な出来事かも知れないが、未だにその声の響きは残っている。その時のさわやかな気分も残っている。いい声というものはいいものだ。

私は、月参りに行ってお経を読む。喉の調子で、声のよく出るときとうまく出ないときがある。よく出るときは疲れないし気持ちもいい。恐らく、お参りをしていてくださる方も同じ思いであろう。今までも、出来るだけ喉を大切にしてきたが、あのオーライオーライを聞いてからは、一層その思いが強くなった。枕草子だったか、確かめてみればいいのだが、「法師は顔良き」などという文句があった。「法師は声良き」と付け加えたい気がする。いつぞや、NHKラジオで彼岸法要の中継があった。朗々たる声で、回向文を唱える場面を聞いたが、ほれぼれした。知恩院の朝課の折にも同じような声を聞いた。皆耳に残っている。いい声は心に響く。

喉の調子の悪いとき、咳払いがよく出るようなとき、不思議なことに、あるお経を読むとそれが解消されることがある。何故だろうかと長年思っている。

（T）

教師冥利

最近、小学校、中学校、高校、大学を問わず、教師はつらい立場に立たされることが多い。大学ではともかく、小中学校ではストレスが昂じて不登校になる先生が居る。中には、指導力不足ということもあろうが、政府はそれを笠に着て、免許書き換え制を導入してしまった。自動車の免許だって、よほどのことがなければ書き換えできないことはない。教員の免許の書き換えはどうやってやるのか知らないが、今必要なのは、教員を虐めることではなく、士気を鼓舞することだと思う。

大学でも学生の幼稚化とともに本来の大学では考えられないようなことが起こっている。希望者全員が入れるようになったのはいい。しかし、全員を卒業させなければいけないとなるとことは別だ。中教審だったか、出るときには一定の達成がなければ行けない、卒業条件を厳しくしなければと言う。至極当然だが、余所の国のまねでなければ幸いだ。日本人の本性なのかどうか知らないが、一旦我が元に来た学生はどんなことがあっても、手取り足取りしてでも卒業させてやりたいといって何とか卒業させる。至極いい話ではあるが、やっぱり一定の水準は保たなければなるまい。学生の最低条件は向学心、向上心があることだと思うけれども、これすら今や怪しい。一定の知的水準を保つことは大学にとっては絶対条件だと思う。

あるとき、授業アンケートの時、教員が自由に設問することの出来る欄があるので、「あなた方は学問的向上心を持っていますか」と不躾な質問をした。多くの学生は、「そう思う」、「まあそう思う」と答えたが、1割くらいの学生が、全く持っていないと答えた。私は多少予想されたこととはいえ呆れた。そういう学生に向かって、「即刻大学を辞めたらどうか、あなた方にとっても、高い学費を出してくれる親御さんたちにとっても、大学にとっても何にも成らない、こ

待機説法

んな事を言うと学長には叱られるけれども」と言ったことがある。尤も、誰も、それで退学したのは居なかったが。

そういうなかで、こんな新聞記事を見た。見出しに「教員の努力に応えなければ」（２００７・９・18中日新聞「大学生」欄）とある。読んでみて、その学生の真剣さ、その努力に感心した。そして、「学生に比べ、教員は大変に思える。…教員の努力に、私達学生も応えなければと思った」とあった。我々教員からみて、面はゆいところもあるが、こういう学生が一人でもいてくれるとなると手は抜けない。教師冥利に尽きる。そして、一言余分ながら付け加えれば、若い学生諸君は身体能力的にも、頭脳的にもかなり過酷な訓練に十分堪えうるはずだと思う。

しかし、現実は残念ながら、我々が意気込めば意気込むほど学生は多く鼻白んで、聞いているのかいないのか。おしなべて向上心、向学心の欠如は深刻だと思う。こうなっては、大学に未来はない。（T）

この標題を見て、成る程と思う人、おやっと思う人、何とも思わない人があろう。大新聞である中日新聞の見出し「釈迦の待機説法」が私の目を射た（２００７・10・19 17面）。直後に、同新聞の役員にあったので、それを見せた。この記事は発言者も校正したはずなのにと言っていた。多分編集部には届いているだろうと思うので、特に新聞社に知らせはしなかった。

同音異義語の間違いで、ワープロの仮名漢字変換ではよくある誤りである。当然「対機説法」とあるべきものである。

この誤りをきっかけに、そう言えば、「対機説法」は勿論大切で、お釈迦様は間違いなく「対機説法」なのだが、ひょっとすると「待機説法」ということも必要なのかなと思った。尤も、それでは待ちくたびれてついに説法の期を逸するのがオチかとも思うけれども。でも、聞く耳を持たない者に対しては何を言っても馬の耳に念仏（何故こんな事を言うのか、馬に聞いてみなければ分からないけれども）。機を得なければ何事も成就しない。だから、向上心のない学生諸君（向上心に満ちている学生諸君はここに入らない）には、先ず、向上心、向学心を起こさせることから始めなければならない。本来なら、向学心があるから、高校や大学に入るのだろうが、そんな考えは今や通用しない。向学心の有無にかかわらず、殆ど希望すれば入れる。一面、いい時代だが、困ったことも沢山出てきている。

先ず、向学心を持たせなければならないが、昔から、馬を水辺に連れて行くことは出来るが、水を飲ませることは出来ないというように、最後は自発的に向学心を起こして貰うほか無いのだ。そんな、自発性を喚起させる技術は身につけていないから、困る。

仕方ない、「待機説法」で行くか。（T）

五角鉛筆

十二月九日の朝のこと、ラジオで各地の話題を伝えていた。その中に、その地方の材料を使ったアイディア商品として、普通、木材を六角に削るところを五角にし、「五角鉛筆（ごうかくえんぴつ）」として売り出したという話があった。受験シーズンを迎えて、受験生の藁をも掴む思いに応えようとするものだ。こんな事でどうなるものでもないが、そこがアイディア商品たるところである。持ち心地はどうなのだろうか。良ければそれに越したことはない。

今では、昔話になってしまうが、我々が子供の頃、終戦直後は、日常の燃料にも事欠いていた。焼き物工場では石炭を燃料にしていて、その燃えがらを山のように捨てた。その中に石炭の燃え残りや、小指の先大のコークス状になっているものを大人も子供も拾って、燃料の足しにした。

松林で、散り落ちた松葉を、熊手を使って集めたものはいい焚き物になった。今では死語になってしまっているが、その、松葉を熊手で集めることを「ごをかく」と言っていた。発音としては正に、「合格」と同じである。この「ご」は広辞苑で、漢字は当てられていないが、「松の枯落葉」とある。「ごかき」という言葉も、その説明の中にあり、用例としては、平安時代の宇津保物語の例が上がっており、さらに芭蕉の「ごをたいて手ぬぐいあぶる寒さかな」という句も上がっている。「ごかき」はもう行われないかも知れないが、「ご」はれっきとした日本語である。ごを掻いて合格しよう。

新フィールド・ノート　―その104―

居酒屋における人間学

情報科学研究科　広木詔三

今年は十一月の初旬にとても寒い日が続いた。そのまま冬になってしまうのかと思うほどであった。真冬なみの寒さであった。そう感じたのは、それまでの暖かさから急激に気温が下がったせいであろう。

やがて十一月の半ばになると、ソメイヨシノが紅葉し始めた。鏡ケ池のソメイヨシノの紅葉が、例年になく美しい。私が名古屋大学を去るという感傷のせいもあるのだろうか。毎日、昼食の前と後と一日二回見に行った。

ソメイヨシノの紅葉は、赤に黄が混じって、ハッとするほど映える。とくに陽の光を受けて反射するときには。工学部三号館のわきから遠目に眺めると、晴れている日は、桜並木が輝いて見える。あるとき曇っていたが、それでもその輝きは失われなかった。鏡ケ池の向かいには名古屋大学の附属高校があり、その間が桜並木になっているが、この並木道そのものは、それほど映えない。ソメイヨシノは寿命が短いと言われているように、枯れかかっているものも多く、輝きが感じられないのだ。

鏡ケ池の桜の葉はなかなか落葉せず、十二月の十日頃まで紅葉が見られた。その頃はケヤキやイチョウも色づき、名古屋大学キャンパス全体がとても華やいだ雰囲気に充たされる。

たまたま名鉄神宮前駅を利用したときがあった。駅から神宮境内とは反対側に神宮東公園という公園がある。神宮前駅からこの公園まで桜並木があり、そこでもソメイヨシノの紅葉が見られた。いつもの年と違ったのは、公園の縁をとりまくケヤキが黄褐色に輝いていたことだった。今年の紅葉は特別だったのだ。映画の世界に入り込んだような気分になる。写真を撮ってみたが、実際に体感したものとはどこか違う。人間の目はよく出来ていると感心する。

ところで話は遡るが、十月の初旬に観光ツアーの案内をした。日本のナラを見てまわる国際的なツアーである。ちょうど植生学会にかさなっていて、参加費も懇親会費も払い込んだあとだったが、大場秀章さんという東大総合研究博物館を退職したばかりの知り合いに頼まれて、断りきれなかった。どんぐりをつけるナラの樹木を見てまわるというのである。

予定の時刻にホテルに着くと、中部空港から着いたばかりの十人ほどの外国人がいた。マイクロバスで目的地に向かう。南山大学の近くで降りてアベマキの林を見てもらう。どんぐりが落ちていて、大喜びする人がいる。それから名古屋大学の構内を歩いた。豊田講堂の裏手を散策した後、博物館の野外観察園を案内した。体育館の裏にはいろいろなカシの木が植えてある。イチイガシも観察した。その後情報科学研究科棟の講義室で、私のつたない講義を行った。私の下手な英語に業を煮やした大場さんが解説をしてくれた。アベマキとクヌギの分布の違いと、神谷君が明らかにした両種の交雑帯について話した。日本のブナ科全体とすみわけの話は、理解してもらえたかどうか分からないが、喜んでもらえた。夜は新瑞橋の居酒屋で盛り上がった。喜んでもらえた。ベルギー、オランダ等々、国籍はまちまちだ。でも、みんな英語を話している。アメリカから来た夫婦の女性は日本人だった。

翌日は海上の森から猿投山をまわった。みんな熱心に植物を観察する。大場さんが学名を言う。ほぼ学名が通じる。感心した。後に名城公園に向かった。混んでいて駐車ができず、名古屋城を一回りした。期せずして、名古屋城の堀をまわり、バス

の中から名古屋城の観光が出来た。バスの中で歓声があがった。名城公園にはキンモクセイが植えられていて、その香気が充満している。キンモクセイの学名がオスマンサスというのをそのとき知った。研究に関係のない植物の学名なんてすぐ忘れてしまうのだが、キンモクセイの学名は記憶に残った。その晩、金山の安い居酒屋を紹介したのだが、残念ながら有線放送がうるさかった。向かいのスコットランドのご夫人からチョコレートを貰った。私の左隣りの婦人は、熱心に話しかけてくる。いつのまにか私も英語で何かしゃべっていた。右隣のこのツアーを企画したドイツの見目麗しき女性からは、さまざまなグッズとナラに関する論文を編集した本の贈呈を受けた。別れ際、一人一人と握手した。感動的なひとときであった。私の一生の中でも充実した二日間だった。

スコットランドの女性から貰ったチョコレートの包み紙には宮殿や公園などの写真がたくさん載っていた。さすがに本場物という味がした。食べきれなかったので、岐阜県立看護大学の学生さんたちにお裾分けした。

看護大での受講生は二十人である。去年は十三人であった。たいへん贅沢な授業なのである。ただ、四年生が対象で、卒論を書きながらの受講なので彼らにとってはたいへんなのである。

看護大は新幹線の岐阜羽島駅から歩いて十五分ほどのところにある。田んぼを埋め立てたようなだだっぴろいキャンパスにこじんまりした校舎が建っている。樹は植えたものばかりだ。去年からこの植えた樹木の観察を授業に取り入れた。カツラの木が何本か植えてある。風によるストレスを受けて一部が枯れている。ストレスと撹乱に対する樹木の繁殖戦略というテーマのときは、このカツラの屋外観察が実に有効である。寒風の吹きすさぶ中、樹木もストレスに耐えているということが体感できるからである。カツラという樹は本来は山奥の谷間に生育するので、看護大のキャンパスに植えられた木は徐々に枯れて行く。その姿から風向きもわかる。

今年はクヌギやコナラのどんぐり拾いを取り入れた。十一月の下旬には、アラカシがまだ堅果を着けていた。ブナ科に関する授業はとうに済んでいたが。

つい先日から、いよいよ本の原稿を書き始めた。三日ほど根をつめたが、一向に進まない。文献をチェックしなければならないし、文章の流れの論理を考えなければならない。当たり前の話しだが、気づくのが遅かった。

私は何をしていたのだろう。最近とみに、自分は研究者として失格だったという思いにとらわれることがある。歳をとって老いてきたときに、自分を受け入れる必要がある、と精神医学の本には書いてあった。

研究の話はさておき、この歳になっても活字が面白い。マサイ族の第二夫人となった永松真紀という人の自伝。それよりも、インドネシアの女流作家アユ・ウタミの『サマン』。この中で、西洋中心主義的な男をあざ笑う女性が出て来る。

文学の世界ばかりでなく、自然科学の分野においても、西洋中心のものの見方が再考を迫られている。最近邦訳されたオッペンハイマーの『人類の足跡10万年全史』では、ヨーロッパで最初に文化や技術の進歩が始まったわけではなく、八万年以前にすでにアフリカでそれが始まっていたという。遺伝子と考古学の証拠から、アフリカから出た人類の祖先が五万年ほど前に二次的にヨーロッパに進出したという。

ダーウィンは南米のフェゴ島人の生活を最初見たときたいへん驚いたが、そのフェゴ島人がイギリスで、英語を話し宣教師として訓練されたのを目撃して、人類のあいだの類似性を信じたと言われている。だが、そのフェゴ島人がフェゴ島に戻ってからは生活ももとに戻ってしまってダーウィンはひどくがっかりしたということである。

かけはしの原稿を書き終えると、外は暗い。黄金色だったアベマキの葉も落ち始め、景色は冬枯れのそれに変貌している。しかし、それも暗くて見えない。

はじめに　電車の中で読んだ本

今年3月に「停年」を迎え、4月以降は朝9時から午後4時まで勤務のパート職員になりました。

朝は始発駅からの乗車で少し早めに行けば確実に座席を確保できます。帰りは夕方のラッシュ前の時間で、これまた同様です。座ってしまえば約40分の読書時間が確保できます。この時間に私は膝の上で読みかけの本を広げ、老眼鏡を透して活字を追います。

省みれば、30歳でいまの所に家を持ち、60歳まで30年間通ったことになります。その間の通勤時間を積算したら相当な時間になります。それは読書時間でもありましたが、大部分は睡眠時間に充てられ、浪費したことをいまになって後悔しています。

この拙文は、団塊世代の一人としてこれまでの読書体験を、浅学非才を省みず綴ったものです。批判も叱責も「かけはし」編集委員会までお寄せください。前置きはこれくらいにして、初回は恋愛小説をとり上げます。

第1回　純文学？　それともポルノ？

団塊世代である村上春樹がビートルズナンバーの一つをタイトルにした『ノルウェイの森』を出したのは1987年でした。これがベストセラーとなり、著者自身の手による装幀だという上巻は赤地に緑の文字、下巻は緑地に赤い文字、そしてどちらも金色のオビという、ケバケバしい本を―それがトレンディであるかのように胸に抱えた、女性の姿を当時よく見かけたものです。

『ノルウェイの森』（村上春樹著、1987 講談社）

発刊から20年後の今年、私もようやく手にとってみました。きっかけとなったのは、昨年度、名大生協主催の「読書マラソン」で、「図書館長賞」（最優秀賞）を射止めたのが『ノルウェイの森』についてのコメントだったことです（名大生協・フロンテの村瀬さんによれば、単行本と同じ装幀の講談社文庫『ノルウェイの森』がいまの学生さんにもよく読まれているという。全国大学生協連のHPでは、2007年10月のベストセラー文庫で19位）。

いつものように電車の中で読み始めてすぐ、周りの視線が気になりました。読んだことのある人ならケバケバの表紙を見ただけで、内容を思いだすでしょう。だから恥ずかしいのです。2日目から本にカバーをつけました。

生活費にも学費にも遊ぶ金にも苦労せず、華やかだった当時の大学紛争にもまったく関心のない学生達が、欲望のままセックスをする描写が10ページに1回、等間隔に出てきて読者を飽きさせません（冗談です……数えたわけではありません）。

性描写といえば、1950年に出版された『チャタレイ夫人の恋人』（D・H・ロレンス著）という小説の中の性描写が猥褻表現に当たるとして、出版差し止めになる事件があったそうです。事件は裁判となり「表現の自由（芸術）か猥褻か」が争われました。結局、訳者の伊藤整氏は無罪だったものの、出版社は有罪となり、出版は許されませんでした。その後出版された本は、問題の箇所を削除し、そこは英文のまま末尾に掲載して出版されました。筆者は高校生のころ、この「削除版」を購入、英文部分を辞書と首っ引きで読解を試みましたがさっぱり分かりませんでした（1996年からは完訳本が発行されている）。

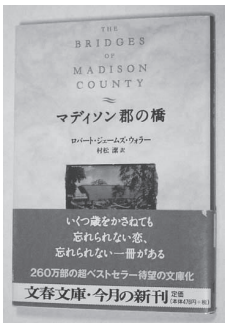
『チャタレイ夫人の恋人』（D・H・ロレンス著、伊藤整訳、伊藤礼補訳、1996 新潮文庫）

最近、削除部分を最初に訳書を出した伊藤整氏の子息である伊藤礼氏が補訳した完訳本を40数年ぶりに読んで見ました。

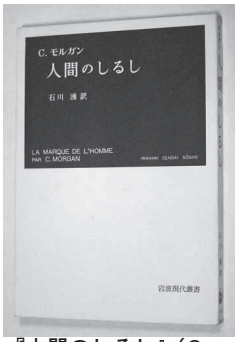
登場人物に生活感がなく、衝動的にセックスに及ぶところは共感できませんが、その描写はとても品があって美しいものでした。英語の苦手な高校生に、こんな香り高い文章に訳せるわ

ある団塊世代の読書ノート　柴田敏之

けがありません。
　本の中でこんな表現も見つけました。
　―たいていの男性はみんな犬のように、ちょろちょろ歩き、嗅ぎまわり、交尾する。ここに怖れもせず恥じもせぬ男がいる！―
　閑話休題。
　『チャタレイ…』で見つけた「男はみんな犬のよう」という言葉を筆者から『ノルウェイ…』の男達に贈ろうと思います。
　中年男女の純愛を描いた小説として『マディソン郡の橋』も、十数年前にベストセラーになりました。
　特に若くない世代の女性達が、こぞって涙を流したとか、「新しい恋愛小説の古典」などというこの本も、筆者はばっさりと批判したことがあります（初対面の男女がその夜からベッドを共にするなんて…というのが私の意見でしたが、「かけはし」に投稿、掲載されたので繰り返しません）。



『マディソン郡の橋』（ロバート・ジェームス・ウォラー著、村松潔訳、1997 文春文庫



『人間のしるし』（C・モルガン著、石川湧訳、1952 岩波書店

　筆者が20代、30代のころ、友人の会費制結婚式に出席する機会がよくありました。そこで色紙が回ってきて、結婚する2人のために、はなむけの言葉を書くように言われたものです。こんなとき、筆者は「愛するということは、お互いが見つめ合うことではなく、お互いが同じ方向を向くこと」と書きました。あの『星の王子さま』の作者、サン・テグジュペリの言葉だそうです。愛するということは2人だけの世界に閉じこもることなく、共通の目標に向かって協力し合える関係を築くこと、と理解しています。
　この言葉を作品の上で具象化したものとして私の印象に残っている作品を2つ挙げてみます。ひとつは『人間のしるし』（C・モルガン著）です。ナチ占領下のフランスで命がけの抵抗運動に加わる男女の姿を描いています。主人公の男女は結婚し子どももいるのですが、そんな男と女の愛はどうあるべきか、全編で追求されています。
　この本との出会いはいまも印象強く記憶にあります。私が学生自治会の役員をしていた当時、新入生歓迎会の企画に、作家の吉開那津子さんを東京から招き講演会を開きました。話の内容は覚えていませんが、講演の最後に、ある本から引用した一節を朗読しました。
　―それはけちな自己愛でもなければ、倦くことを知らぬ所有愛でもない。そうではなくて、わかち合う努力、共通の世界観、より美しい生活に対する信念の上にきずかれる愛、自由から切り離されず、生きることの唯一の理由である愛―
　これが『人間のしるし』からの引用でした。すぐに本を入手し読みはじめたのはいうまでもありません。
　もうひとつは『きれぎれの愛と死』（門倉訣著）です。1950年代の後半、封建的で公私の区別も出来ないような横暴な社長の下で、労働組合を結成し、働く仲間の最低限の権利を守りたいという願いをもってたたかう青年労働者の姿を描いています。会社側の激しい弾圧の下で、愛を裂かれてしまうさとしと照子がかわいそうで、筆者は、電車の中で何度も涙がにじみ、困りました。この2つはともに古い本で絶版になっていますがすが、古書店では今も人気があります。
　許されるならこれから数回、小説ばかりでなく、科学を分かりやすく案内してくれる本、戦争を考える本、青春の生き方を考えた本など個人的な読書体験を紹介させていただこうと思ってます。

（つづく）

『きれぎれの愛と死』（門倉訣著、1970 東邦出版）

　『ノルウェイの森』単行本、上下（古本ですが）を一名の方に差し上げます。「かけはし」クイズの余白に『ノルウェイ…』希望とお書き添えください。応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

（しばた・としゆき＝エコトピア科学研究所技術補佐員）

ニュースに一喝！

うそ

今年の世相を表す漢字として「偽」という字が選ばれた。これを墨痕鮮やかに揮毫された清水寺の管長さんにしても、もっといい字を書きたかったに違いない。いかにいい筆跡であっても、この字を床の間に飾ろうとは誰も思うまい。

しかし、今年の世相を表す言葉と言えば、確かに「偽」だ。もうこの何年来も続く何とかの捏造、何とかの偽装というのが、身近に迫ってきているのをひしひしと感じる。石器時代の鏃か何かの捏造は考古学界を揺るがす出来事だった。耐震強度の偽装は、建物の安全に関わる大事件だった。これは、その後も続いている。よくも、性懲りも無くと思う。未だ、今までに実際の人的被害がなかったからいいようなものの、現にアメリカで は橋が崩壊している。日本でも同じようなことが起こる危険性は大きい。木曽三川に架かる橋での支えの金属の破断など肝を冷やすに十分である。

今年はそれに加えて、食品関係の偽装が目立った。年の後半に起こり、今でも営業停止の赤福、船場吉兆の牛肉産地や賞味期限の偽り、もう少し前には、北海道のミートホープのインチキ、或いは、チョコレートの賞味期限の偽装など、目立った物だけでも随分になる。細かな物も言いだしたらきりがない。会社の偉い人たちが、雁首をそろえて頭を下げている風景をどれだけ見たことか。

今まで、その偽装によって、人命の被害がなかっただけが救いだが、それをいいことに、消費者を騙すことは許されない。消費者は、その表示信用するほかないが、それが信用できないとすれば、何も防衛手段がない。しかし、今や、消費者もそれを芯からは信用しなくなったのではないか。信用が保てなくなった社会は危ない。

政治の世界では疾うにそうなっている。今、防衛省の装備品にかかわるゴマカシの数々、きちんと納得できるまで解明して欲しい。それを政治家に任せなければならない。我々は信を政治家に託さなければならない。その世直しを新年には真剣にしていかなければなるまい。

実際に被害が出ようが出まいが、うそをつくということはどんな場合にも良くない。

（田　２００７・12・18記）

惻隠の情

数日前の中日春秋の記事の中にあった話だ。話そのものは、もう随分前の事だ。しかしまだ決着が付いていないという。

大型トラックの運転手が、故障して止まっていた軽乗用車を、自分の運転している車を止めて助けようとして、他の車にはねられて亡くなったという事件についてである。その死亡事故が労災かどうかということを巡って、もう長期にわたって争われているのだ。

労災と認定しない側の論理は、会社はその業務として、その運転手のやったことを命令していないからだというのである。

どんな仕事であれ、仕事中に、事故はあるだろうし、人命に関わるようなことだって発生しよう。仕事を命じた側としては、確かにその当該の仕事だけを命じたのであろうが、そういう事故が発生した場合、放っておけというのであろうか。それは、仕事中の出来事ではないのだろうか。命じられた仕事とは違うかも知れないが、人命に関わるようなことが起きれば、放置しておけないのがまともな人間ではなかろうか。

それでも、法律を盾にとって労災と認めないのであろうか。死んでしまった当人としてはどっちでもいいのかも知れないが、残された人の問題である。大きく言えば人間としてのあり方の問題、当節はやりの言葉で言えば、「人間の品格」が問われることである。

もし、法律がそれを認めないならば、最初からそれを法律に書き込まなければなるまい。法

律に書き込まなくとも、法律を運用するのは人である。法律を適用する人々に、人間としてのあり方を期待したい。

このことに限らず、最近問題がクローズアップされている薬害肝炎のこと、どうして、同じ薬で起こった事に対して、その薬の投与された時期を限定するのだろうか。そうしないと、保障対象が際限なく広がるというのかも知れないが、紛れもなく、同じ原因で起こったことは平等に扱うべき事だと思う。

福田内閣の支持率急落は、年金問題での公約だったのかなぁなどというとぼけた発言も大いに影響したのだろうが、全般に手堅く役人の言うことを聞いていこうとしていて、自らの政治家としてのリーダーシップを取ろうとしない首相の姿勢に世論が反発したのではないだろうか。

人は誰でも「惻隠の情」を持つという。もっとも、その情を大切にしなくてはならない人から、それが感じられないのは、悲しいことだ。

（田　２００７・12・18記）

不眠信仰

以前「快眠産業」なるものがあるということを聞いてへーエと思ったことがあった。世の中には不眠に苦しむ人が多いらしい。睡眠導入剤という薬がある。睡眠薬とどう違うのかよく知らない。ただ、眠れない眠れないと言っている人々の中には、本当は十分寝ている人も結構いるという。朝起きたとき、ああよく眠れた、と気持ちよく目覚めることが出来ないのだ。時間が足りないという強迫観念もあるようだ。

しかし、眠れない眠れないと思っていると本当に眠れなくなり、心の病気になってしまうこともあるそうだから、放ってはおけない。

ただ、ここから先は私の勝手な思いだから、間違いがあるかも知れないが、皆様方の御意見も聞かせて欲しい。私自身眠れずに困ったという経験が全くないわけではないが、最近そういうときには焦らないことにしている。大体そんなことは滅多にない。私は、この頃体を良く動かす。つまり運動する。朝起きて直ぐ四股を踏む。今は100回にした。15分もあれば済む。通勤は雨でなければ17キロを自転車で。2、3キロまでは歩く。夕飯後、家内に付き合って大体30分散歩する。寝る前に、又四股100回。腹筋運動を300回から500回。首の運動を、寝た状態で、左右上下に各100回、とても痛くなるが、辛抱。お陰で、と思うが、相撲を取って顔から落ちたことが今年になって2回有り、顔に派手な怪我をして冷やかされたけれども、首は無事だった。以前、相撲で手足の骨を折るくらいなら治るからもいいけれども首の骨を居ると一生寝たきりだぞと脅かされたが、そうならずに済んだ。話が逸れたが、あと5キロのダンベルを左右にもって100回ずつ、これは腕の運動。これだけやっていると、途中で寝てしまっていることもある。ちゃんと目を覚ましてやっている時でも、布団にはいるともう大あくび、何分起きているか分からない。体が疲れると寝てしまう。

風邪引きとか、腹痛とか、頭痛とか、喉が痛い、目が疲れるなどと、いろいろお医者さんの世話になることは多い。健康保険はその際随分面倒を見てくれる。それはそれで有り難い。しかし、健康診断は健康保険の対象にならない。誠に奇妙な話だ。病気にならなければいけないのだ。病気にならないようにと指導をするということはお医者さんにとっても大変大切なことだと思う。お金のことを言えば、病気になって治すより、病気にならないようにする方が恐らくずっと安上がりだろう。医者不足と言われる。町の中では余りそれを感じないが、人口の少ないところでは医者不足は深刻なようだ。医者は医者で疲れ切っている。小児科のお医者さんなど大変だ。病気に罹らないようにすることを第一にすべきではなかろうか。何でも薬で治そうとばかりするが、病気にならない体を作るべきで、其れはそれぞれ努力しなければならないと思う。

不眠も精神的疲労は多くても身体的に疲労をしないので眠れないということが多いように思うが、どうだろうか。勿論こんな単純なことだけでは無かろうが、本当に治療が必要な人だけが治療を受けられるようにすべきであろう。

（田　２００７・10・19記）

かけはし 11・12月号の感想

農学部の周りにも

★東山キャンパスに持ち込まれたゾウムシということですが、自分のいつもいる農学部の周りにこのような種がいたとはびっくりしました。銀杏の記事のかぶれの話ですが、学内にはウルシの仲間が多く、初夏の時期には私も毎年かぶれるので気持ちが分かります。【玉木一郎】

ゾウムシが面白かった

★毎号楽しく拝見させていただいています。今月号はゾウムシの記事が面白かったです。【meso】

ヘコむことが多かったので

★「～したら、どうしよう」の記事を繰り返し読みました。最近ヘコむことが多かったので、「何事も成るようにしか成らない」を肝に銘じます。【Y】

無期限停止処分は重すぎ!?

★赤福事件の記事に一言。現時点では「賞味期限を改竄した赤福を食べたから食中毒を起こした…」といったような話は出てきていませんよね。その意味では、他の食品偽装問題に比べて会社側の責任はそんなに大きくないという見方もできると思うのです。そう考えると、会社に下された無期限の営業停止処分というのは余りにも重すぎる気がしなにでもないですね。まぁとりあえず、赤福が食べられないのは残念ですな。【ひろっちょ】

赤福食べれないのが残念

★赤福事件により赤福が食べられないのが残念です。【Y・I】

赤福よ、お前もか

★「赤福よ、お前もか」と思う人が多いのは、食の安全に対して日本人のもったいない精神が根強いからかも知れません。旅館の自販機では賞味期限が1週間も過ぎた牛乳が売られているのはよくあります。【赤塚保雄】

何を信じたらよいのか

★毎回、「ニュースに一喝！」を楽しみにしております。赤福事件のことが掲載されておりましたが、消費者は一体何を信じたら良いのかと思ってしまいますよね。マクドナルドも消費期限切れが発覚しましたので、なおさらです。【紫苑】

安心して食べられる食品を

★ニュースに一喝！のコーナーでも取り上げられていましたが、『赤福事件』を初め、最近では食品の偽装問題が凄く多いように感じます。私は学部時代食品についての授業を多く履修していたこともあり、食品業界に関してかなり興味を持っていたので凄く残念でした。これから食品業界に進む方にはこのようなことが無く、私達が安心しておいしく食べられるような食品を作ってもらうことを期待したいです。【えいちゃん】

喝々々々々々のご時世

★ひさしぶりに目を通しました。河合さん大活躍ですね。いつもながらよく勉強されているんでしょうね。最近はニュースに「一喝」どころか「喝々々々々々」のご時世ですね。【私も組合員】

子供の頃を思い出した

★魔言の「銀杏」を読んで。子供の頃、通っていた小学校へよく銀杏を拾いに行っていたことを思い出しました。【ＪＪ】

沖縄に行きたい

★沖縄に行きたくなりました。【高木克巳】

沖縄に興味がわいた

★沖縄に行ったことがないので非常に興味がわきました【アウトレット】

食堂や旅行とリンクさせては

★河合さんの「２００７年オキナワの旅」が良いです!! 沖縄に行きたくなります。生協の食堂や旅行とリンクさせて何か企画してはいかがでしょうか。【石田麻紀】

車内のビールは嫌い

★9・10月号の感想欄の「車内のビールは嫌い」が印象に残りました。同様なことを考えていたものですから。【ふじ組】

りんご頼んでみよう

★りんごの販売が大学内であると知り、頼んでみようと思いました。また献血があるのですね。前回、農学部であったときは、私は血が薄いらしく断られましたが、周りに声をかけてみようかと思います。【わんこ】

ＤＶＤ上映会面白そう

★いつも実験の合間に楽しく読ませていただいてますＤＶＤ上映会は面白そうなので行ってみたいです【mammy】

早く見つけてじっくり読もう
★かけはしの存在自体知りませんでした。もう3年近く勤めているのに・・・。しかも締め切りの4日程前ということで、実はあまりじっくりと読んでいないのです。すみません・・。こんなにイベント(?)やってるなんて知りませんでした。すべて終わってましたが・・。りんご農場見学でしたっけ・行きたかったかも・・。去年買っておいしかったから。医学部のほうにいるとあまりイベントもなくつまらないです。本学に行くことはまずないですし。次号からはもっと早くかけはしを見つけてじっくり読もうと思います。気になるイベントがあったらたまには、本学に出かけていくのもいいかも！　【チャリママ】

老朽化には追いつかない
★事故のニュースに思うこと。大きな人身事故には至らないが、日常の業務にも事故はつきものである。我々の職場でも停電や漏水といった事故は年に数回は発生している。もちろん事故の度に対策は講じるわけであるが、機器の老朽化には追いつかない。【赤塚保雄】

読んでいません。　【ブシュギ】

意見と通信

卒業式の特集を
★卒業式に関する特集をしてほしいです(前年度の様子や、これまでの歴史など)。　【わんこ】

食堂で沖縄フェアを
★12pの「沖縄ならではの食材たち」の島ラッキョウ、おいしそうですね。生協の食堂でも沖縄フェアがあると良いですね。　【玉木一郎】

インタビューの復活を！
★かけはしの目玉ともいえるインタビュー記事の復活をキボンヌ！　【ひろっちょ】

組合員の特典を詳しく
★やっと組合員になりました。手続きの時に、いろいろと説明があるのかと思っていましたが、割とあっさりしていて驚きました。組合員の特典等、詳しく教えてもらえると良かったと思います。　【Y】

仕事の紹介でもっと身近に
★よく利用する食堂や購買の記事があると注目するのですが、食堂のおばちゃんの仕事ぶりを一日密着レポートするなど、仕事内容の紹介があるともっと身近に感じていいですね。　【石田麻紀】

名大周辺のグルメ特集　【アウトレット】

大学近辺のお店紹介
★大学近辺のお店などの紹介のページなども盛り込んで欲しいです。特に大学近辺の飲食店が少ないのでお勧めなどあれば一度足を運んでみたいと思っい提案しました。また、あるテーマを設けてそれに関する読者からの意見の応募によって作るページなども新設して欲しいです。　【えいちゃん】

図書カードよろしく
★意見は特にありません。図書カードよろしくお願いします。　【ブシュギ】

フェアに期待しています
★パソコン&家電フェアには期待しております。　【高木克巳】

生協ならではの商品の宣伝を
★コンビニの学内進出に伴って、南部生協の食品類(特にお菓子類)の販売の仕方を見直すべき時期にきていると思う。生協ならではの商品を目立つ形で宣伝し、販売する形態に変えていった方がよいのではないだろうか。　【ふじ組】

3秒遅れは大問題
★PC用のワンセグチューナーを買ってみました。アナログチューナーではほとんど受信できなかったのが、ゴーストもなくクッキリ再生できたのは感激ものでした。ただ、アナログ放送に比べて3秒ほどのラグが生じるのが気になります。緊急地震速報が3秒遅れて届くのは問題がありそうです。　【赤塚保雄】

★「大学生活事情」といった、学生や職員、留学生の経済生活ぶりが分かる記事があったらいいなと。エピソード集でもいいかもしれません。　【私も組合員】

医学部でもイベントを
★難しいとは思いますが、医学部でもいろいろやって下さい。　【チャリママ】

冬の組合員交流企画の報告

愛の助け合い献血活動

12 月 12 日 11 時から北部生協前にて献血の受付を開始しました。昨日の寒い日から一転して晴天の穏やかな一日となりました。献血の受付者数 65 名 , 献血者 55 名 (400ml:52 名 ,200ml:3 名) のご協力がありました。

午前は 32 名の受付があり予定より 1 時間ほど午後の時間にずれ込んだため、休憩を 14 時 30 分～ 15 時 10 分に短縮変更していただき、午後の献血受付を行いました。終了間際に 7 名の方が献血されたことと。具合が悪くなった方に献血車内で安静にしていただいたこともあり、献血終了後の撤去は 18 時 30 分になってしまいました。

しかし , 今回はこれまでの献血より , 献血できなった方が少なく (15%),400ml 者が 94.5% と高く (愛知県平均約 80%) なっています。又、新規献血者は受付者数での推定ですが、約 30% とこれも高くなっていることが今回の特徴と言えます。

今献血では 80 単位を依頼されていましたが、これを超える協力を頂いたことに感謝します。

映画「ゲド戦記」上映会

名大生はなぜかアニメがお好きということで「ゲド戦記」を 11 日ゆ～どん、12 日カフェフロンテで上映しました。 2 日間で 21 名の方に鑑賞いただきました。

赤ちょうちん

12 月 13 日ゆ～どんにて、恒例の赤ちょうちんを開催しました。今回は前売りチケット販売が低迷し、前週の金曜サロンのイベントの開催準備などで十分な宣伝ができず、過去最低の 8 名の参加でした。常連の教職員の方々も職場での忘年会と重なったようです。参加され方々には楽しいひとときになったようでした。12,460 円の利用があり、収益の 4,411 円をユニセフに募金いたしました。

Ｆエース産直リンゴは 32 箱販売

めいきん生協と産消提携している長野県下伊那郡松川町の省農薬Ｆエースリンゴは今年も好評で、少し傷のあるＢ級品ですが 32 箱を販売し、3,200 円をユニセフに募金しました。

教職員委員会活動日誌（2007 年 11・12 月）

月　日	事　項	場　所
11 月 1 日（木）	東海地域センター地域部会	地域センター東海会館
3 日（土）	中山道を歩こう 2 ～大井宿から落合宿へ～	岐阜県恵那市→中津川市
5 日（月）	11 月度常任理事会	ゆ～どん
10 日（土）	東海地域センター理事会	地域センター東海会館
12 日（月）	東海地域センター三役会議	ホテル「ル・ウエスト」
16 日（金）	平和憲章委員会	名大職組書記局
17 日（土）	平和と国際交流プロジェクト	東京・杉並会館
18 日（日）	全国教職員委員会	東京・杉並会館
19 日（月）	11 月度理事会	フレンドリィ南部
23 日（金）	Ｆエースりんごの産地見学	長野県松川町
26 日（月）	11 月度教職員委員会	ＩＢカフェ
30 日（金）	第 14 回名古屋大学・生協懇談会	グリーンサロン東山
12 月 1 日（土）	東海地域センター教職員セミナー	グリーンサロン東山
3 日（月）	12 月度常任理事会	ゆ～どん
7 日（金）	第 20 回音としゃべりの金曜サロン 「ホットジャズライブ at 師走」	フレンドリィ南部
8 日（土）	東海地域センター理事会・総会	地域センター東海会館
10 日（月）	12 月度理事会	フレンドリィ南部
11 ～ 13 日	冬の組合員交流企画	
	11 日映画「ゲド戦記」上映会	ゆ～どん
	12 日「愛の献血助け合い活動」	VBL 駐車場
	映画「ゲド戦記」上映会	カフェフロンテ
	13 日赤ちょうちん	ゆ～どん
17 日（月）	教職員委員会忘年会	札幌かに本家八事店
21 日（金）	平和憲章委員会	名大職組書記局

名大生協

学内便

「かけはし」編集委員会行

山　　折　　り

○氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　組合員証番号＿＿＿＿＿＿＿＿

○所　属＿＿＿＿＿研究科 学部 センター＿＿＿＿＿専攻・課 学科・掛（教職員・院生）

○連絡先＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿内線＿＿＿＿＿＿＿＿

○誌上匿名希望の方はペンネーム＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

山　　折　　り

①豊川海軍工廠跡地戦跡見学ツアー【1月27日(日)】
②初心・初級スキー教室＆スキーツアー【2月8～11日】
③ミステリー酒蔵見学ツアー【2月23日】
④「硫黄島からの手紙」＆「父親たちの星条旗」【2月5日＆12日】
参加申込用紙

番号	氏　名	所　属	年齢	内 線	組合員証番号

※ツアー参加は保険の加入上年齢が必要ですのでご記入願います。

アンケートに
ご協力願います。

第　２７５　号

クイズのこたえ＿＿＿＿＿＿＿＿

☆今月号を読んでの感想

☆記事にしてほしいこと。生協へのご意見やみなさんからの通信をぜひ。

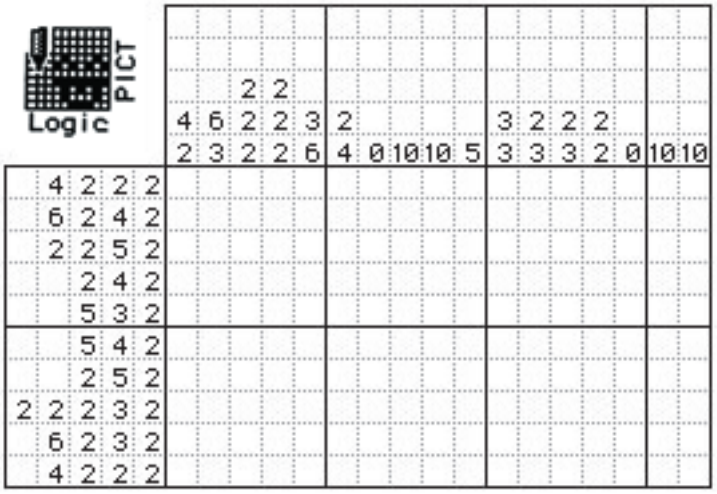
COOP クイズへの応募、アンケートの回答は、http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/kakehashi/answer.html　から送信できます。また、e-mail: kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp でも受け付けます。必要事項をもれなく記入してください。

CO-OP QUIZ

No．２７５
2008月１・２月号

縦と横に書かれた数字にしたがってマスをうめていくと絵（または文字）が現れます。それは何でしょう。

（ヒント＝スポーツです）



****

クイズが解けたらぜひ応募してください。クイズの嫌いな方は、ご意見だけでも歓迎します。

****

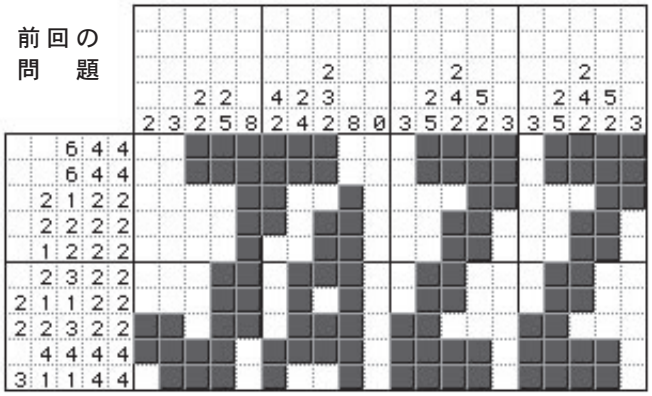
前回の正解は「JAZZ」でした。解き方がまだわからない方は、解答の絵の数字と黒マスの関係をよく見てください。

****

あなたもLogicの問題を創作（出題）してみませんか。問題の投稿も歓迎します。手描きでもＯＫ。

採用の方には図書カードを進呈。

前回の問題



応募要項

○締め切りは2月18日
○発表は本誌、３・４月号
○正解者（但し、①組合員＝当選後ご加入も可、②意見・感想記入者）の中から、抽選で５人の方に図書カードをさしあげます。
○生協への意見・要望をどしどしお寄せ下さい。

第２７４号の当選者

・応募総数　……18人
・正解者数　……17人
・当選者（敬称略）

中安由美子（医学系研究科）
安藤　元良（工学研究科）
小川さおり（生命農学研究科）
高橋　励（生命農学研究科）
山本　順子（環境学研究科）

以上の５人の方に図書カードをお送りします。

名古屋大学平和憲章（1987.2.5 制定）

わが国は、軍国主義とファシズムによる侵略戦争への反省と、ヒロシマ・ナガサキの原爆被害をはじめとする悲惨な体験から、戦争と戦力を放棄し、平和のうちに生存する権利を確認して、日本国憲法を制定した。

わが国の大学は、過去の侵略戦争において、戦争を科学的な見地から批判し続けることができなかった。むしろ大学は、戦争を肯定する学問を生みだし、軍事技術の開発にも深くかかわり、さらに、多くの学生を戦場に送りだした。こうした過去への反省から、戦後、大学は、「真理と平和を希求する人間の育成」を教育の基本とし、戦争遂行に加担するというあやまちを二度とくりかえさない決意をかためてきた。

しかし、今日、核軍拡競争は際限なく続けられ、核戦争の危険性が一層高まり、その結果、人類は共滅の危機を迎えている。核兵器をはじめとする非人道的兵器のすみやかな廃絶と全般的な軍縮の推進は、人類共通の課題である。

加えて、節度を欠いた生産活動によって資源が浪費され、地球的規模での環境破壊や資源の涸渇が問題となっている。しかも、この地球上において、いまなお多くの人々が深刻な飢餓と貧困にさらされており、地域的および社会的不平等も拡大している。「物質的な豊かさ」をそなえるようになったわが国でも、その反面の「心の貧しさ」に深い自戒と反省がせまられている。戦争のない、物質的にも精神的にも豊かで平和な社会の建設が、切に求められている。

今、人類がみずからの生みだしたものによって絶滅するかもしれないという危機的状況に直面して、われわれ大学人は、過去への反省をもふまえて、いったい何をなすべきか、何をしうるか、鋭く問われている。

大学は、政治的権力や世俗的権威から独立して、人類の立場において学問に専心し、人間の精神と英知をになうことによってこそ、最高の学府をもってみずからを任じることができよう。人間を生かし、その未来をひらく可能性が、人間の精神と英知に求められるとすれば、大学は、平和の創造の場として、また人類の未来をきりひらく場として、その任務をすすんで負わなければならない。

われわれは、世界の平和と人類の福祉を志向する学問研究に従い、主体的に学び、平和な社会の建設に貢献する有能な働き手となることをめざす。

名古屋大学は、自由闊達で清新な学風、大学の管理運営への全構成員の自覚的参加と自治、各学問分野の協力と調和ある発展への志向という誇るべき伝統を築いてきた。このようなすぐれた伝統を継承し、発展させるとともに、大学の社会的責任を深く自覚し、平和の創造に貢献する大学をめざして、ここに名古屋大学平和憲章を全構成員の名において制定する。(前文より)

名古屋大学消費生活協同組合

☎ <052>781-1111（内線 7540）

●書籍 (和書・洋書・雑誌) に関するご相談は
北部書籍 (内線 7544)　南部書籍 (内線 7551)
医学部書籍 (内線 5208) 大幸書籍 (内線 5552)
●文具・事務用品に関するご相談は
北部購買 (内線 7542)　南部購買 (内線 7549)
医学部購買 (内線 5209) 大幸購買 (内線 5552)
農学部購買 (内線 7557)
●レストラン「花の木」(内線 7605)
●旅行 (国内・海外)・宿泊に関するご相談は
北部旅行・サービスセンター (内線 7543)
南部旅行・サービスセンター (内線 7550)
医学部旅行・サービスセンター (内線 5213)
●印刷とネットワークに関するご相談は
印刷・情報サービス部 (内線 7552)
●パーティー料理・弁当に関するご相談は
弁当部 (内線 7553)　理系食堂 (内線 7555)